令和８年度 埼玉県・クイーンズランド州スカラシップ　埼玉親善大使レポート

氏名：由浅 結依菜
活動場所：オーストラリア クイーンズランド州

1. はじめに

この度、2026 年 7 月 21 日から 8 月 5 日にかけて、オーストラリアのクイーンズランド州に派遣させていただきました、由浅結依菜です。

まず、このような学びの機会をご用意してくださったクイーンズランド州教育省の方々、埼玉県国際課の方々、現地の先生方、そして本プログラムの関係者方全員に厚く御礼申し上げます。

本レポートでは、現地の様子を始めとして、埼玉親善大使としての活動をご紹介いたします。

2. ブリスベンについて



バス、フェリー、ブリスベンメトロ（EV バス）等の交通手段が充実しており、アクセスがしやすい都市でした。ブリスベンリバーの近くには、オフィス街やモールが建っており、人々の生活と自然が調和していると感じました。他にも、戦没者を追悼する永遠の炎や、クイーンズランド州の名前にちなむビクトリア女王の像があり、歴史を大切にしている点も印象的でした。

3. イェロンガ高校のご紹介

イェロンガ高校は州立の中等教育学校であり、Year 7（日本での中学 1 年生）から Year 12（日本での高校 3 年生）の生徒が通っています。多言語を話せる生徒、宗教の理由上で食べられないものがある生徒等、見た目のみでは分からない、多様な背景を持つ生徒がいました。また学校の集会で、オーストラリアの先住民であるアボリジニとトレス海峡諸島民の方のパフォーマンスを見る機会もあったため、互いの文化を尊重することが当たり前の学校であると感じました。

4. 学校生活について

イェロンガ高校では、Year 9 または Year 10 のバディと学校の授業に参加したり、一緒に遠足に出かけたりしました。生徒のみならず先生方も気さくに話しかけてくださり、名前や出身地から、話が弾みました。オーストラリアならではのスラング、独特な発音もありましたが、聞き返すとすぐに教えてくださいました。冗談が上手な方も多く、笑いが絶えませんでした。

生徒は、学期ごとに授業の教科を選択できるため、各個人で受けている授業がかなり異なっていました。先生に質問をしたり、ワークシートに取り組んだりと、70 分間の授業に、積極的に参加している様子でした。教科により異なりますが、基本的に生徒が板書を写す時間はなく、授業で使用する教材や先生のメモは、全て One note に整理されている様でした。

First Break では、生徒自身が持参した昼食または Tuck Shop で購入したものを、屋外で食べ

ます。円卓を囲み、他愛ない話をしながら食べたピザがとても美味しかったことが良い思い出です。3コマ目の授業後には、おやつを食べることができる30分間のShort Breakがありました。最終的に学校は、水曜日を除いて午後14時45分に終わり、放課後は買い物に行ったり、散歩したりと、有意義に時間を使うことができました。



現地のバディと、コアラやカンガルーとふれ合えるLone Pine Koala Sanctuary、ブリスベンを一望できるMount Coot-tha等に行きました。自然の多様性を肌で実感したとともに、植樹等で自らが自然保護の活動に加わったことで、自然を未来へつないでいく重要性に改めて気づきました。クイーンズランド州は、Sunshine Stateと呼ばれるほど晴れる日が多く、全日程で天候に恵まれました。

5. 家庭での生活について

私が滞在したホストファミリーの家では、チキンパルミジャーナ等のオーストラリア料理やペルー料理等、国際色豊かな夕食を作ってくださいました。外食に行った際には、一皿のサイズの大きさや、グルテンフリーやベジタリアンメニューなどの選択肢の多さに驚きました。シェアを楽しみながら、全て美味しくいただきました。ショッピングモールの営業時間が18時30分頃までと短い理由を聞くと、オーストラリアでは、仕事よりも家族との時間を優先する”Live for Work”の人が多いことも関係していると、ホストファザーが教えてくださいました。唯一21時頃まで営業する木曜日の夜には、レイトナイトショッピングを楽しみました。



留学期間中に誕生日を迎えたため、ホストファミリーが盛大にお祝いをしてくださいました。ブラウニーを焼いてくださったり、全員でパブロバのデコレーションをしたり、大きなラミントンを食べたりしました。ホストファミリーの祖父母も来てくださり、バースデーソングを日本語で歌ってくださいました。普段とは異なる場所で、異なる祝い方で、一生忘れられない誕生日になりました。本当にありがとうございました。

6. 埼玉親善大使としての活動

①「埼玉の魅力」冊子の配布

建築物、食、自然の項目毎に日英2言語で制作した冊子80部を、イェロンガ高校の生徒、ホストファミリー、現地で出会った人等に配布しました（日本語版：「埼玉の魅力」パンフレット日本語版）。バディ6人は約2か月後に埼玉県を訪れるため、参考になる、と喜んでくれました。また、イェロンガ高校での掲示用に、先生に「埼玉の魅力」ポスターをお渡ししました。

②埼玉県の銘菓の配布

イェロンガ高校のバディや友達に、埼玉県で有名なお菓子であると伝え、ねぎ味噌せんべいを配布しました。ホストファミリーには、狭山茶、彩果の宝石等をお土産としてお渡ししました。

③小松菜うどんの調理

ホストファミリーに、埼玉県産の小松菜と小麦が使用されている小松菜うどんを、夜ごはんとしてご馳走しました。おいしい、とおっしゃいながら食べてくださり、とても嬉しかったです。

他にも、Instagram にて現地の様子を毎日発信したり、埼玉県のプレゼンテーションを行ったり、会話の中でコバトンを紹介したりしました。

7. 終わりに



私は、今回の短期留学を通して、個人が持つ背景は個性の一部であり、互いの文化や背景を完全に理解していなくても、言語の壁があっても、相手を思いやる心があれば、当然に尊重し合えるものだと学びました。多文化の中に身を置くことで、私自身がどのような価値観を持っているのか、埼玉県にどのような魅力があるのか、再認識することができました。

今回私が、クイーンズランド州と埼玉県の架け橋となる、埼玉親善大使を担えたことを、心より光栄に思います。ほんの一瞬に感じる程充実した、素晴らしい２週間でした。

改めまして、本当にありがとうございました。